

大規模農場整備で 農産物の立ち上げを



山本 優人 議員

質問 「地域農業の将来に関するアンケート調査結果」では、2ha未満の農家の87%が離農の意思を示している。高齢農家の肉体的な限界がくる前に、もしくは農家が保有している農業機械の更新期がくる前に、営農の受け皿を早急に確保しなければならぬ。離農が急増する前に大規模にほ場を整備し、儲かる農業を行える大規模ほ場を確保して、企業・農業法人・兼業農家・一般町民であれ、農業参入できる環境整備が必要で

あり、農業人口を増やさなければならぬ。大規模生産ほ場を整備することが、6次産業(※)たる加工事業の発生や冬野菜用のハウス生産事業などが必然的に生まれ、町が遊休農地等を強制力をもって借り上げ、耕作したい者に貸し出す。それによって遊休農地から地代が上がり貸手も借手も収入が入り、町民の利益になる農事業を立ち上げては。企業参画により雇用や観光・加工事業なども生まれるのでは。

再質問 「農業を核とした振興策を講じることで農業人口を増やし農産物の生産性を向上させ、6次産業化、農商工連携、観光振興にもつながり、町の産業発展にもつながる」という発想・考え方には賛成だ。農地は私有地・個人有地であり、町が事業また

再質問 大手の食品会社に貸す、もしくは飲食店の産地工場として貸すということも想定しておかないと、今後農地の放棄というのはほとんどないか。

再質問 個人の力で農地集積するというのは限界にきている。ある程度行政が誘導するべきでは。農家を生かすため農地の整備、農業インフラを積極的に行う考えは。

用語解説
6次産業：第1次産業である農業などで生産された食料を加工して、販売までを一元的に実施する産業のこと。加工することが第2次産業、販売することが第3次産業となるため、1と2と3を足し、もしくは掛けて第6次産業と呼ばれる。



町主導で遊休農地を集積できたら...

生ゴミの堆肥化に ついての考えは



佐藤 克實 議員

質問 段ボール堆肥の普及促進は進展の方向にあるのか。
また、段ボールは置き場所によつては、臭い・雨などでその物が堆肥化になる心配はないのか。

再質問 食品会社から出る生ゴミは大量だが、結局は産業廃棄物のような現状にあり、将来的には低炭素循環型社会の構築が求められているのでは。町単独では大変であることから、未来づくり交付金の活用をできないか。

再質問 農作物の付加価値を高めるためにも町のイメージとして、アクションを起こす必要性があると思うが。

再質問 有機肥料の原料になる堆肥は農家の方々も活用できる状況にあり、町民意識の高揚を生み出して頑張るのも手段だと思ふ。